

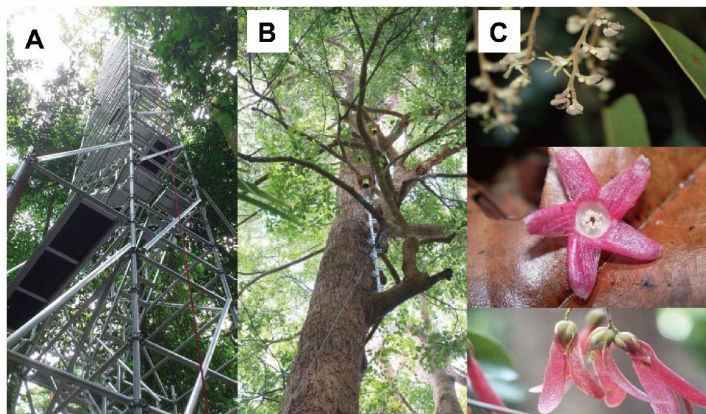
第15回 九州大学 理学部生物学科 公開講座

九州大学理学部生物学科では、高校生や市民のみなさんを対象にして、生物科学の現状をわかりやすく紹介します。ふるってご参加ください。

季節を敏感に感知する植物たち

佐竹 暁子 (生態科学研究室・准教授)

毎年決まった季節に植物が花を咲かせるのはなぜでしょうか？季節のない熱帯では、何を手がかりに開花が誘導されるのでしょうか？現在変化しつつある地球環境は、植物の開花にどのような影響をもたらすのでしょうか？異なる種であっても高く保存された開花遺伝子の働きを分析し数学モデルと組み合わせることで、温帯から熱帯まで多様な植物に共通する環境応答の仕組みが明らかになりつつあります。ここでは、開花をテーマにした私たちの研究成果を紹介することで、野外でみられる生物の多様なふるまいを遺伝子レベルで分析することの面白さをお伝えします。

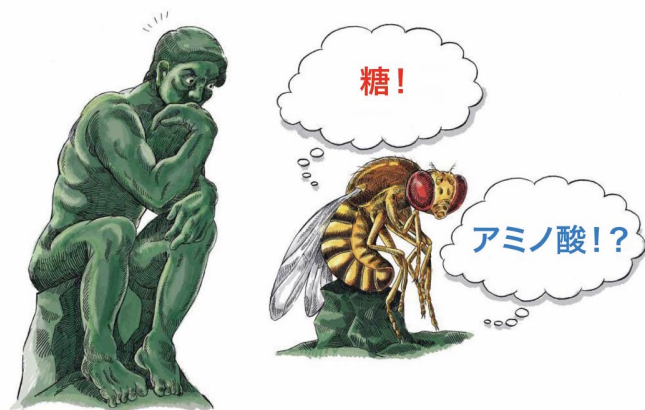


A: 30mほどのタワーを用いると熱帯雨林の樹木の頂上までやっとアクセスできます。B: 東南アジア熱帯雨林に生息するフタバガキ。C: フタバガキは数年に一度花を咲かせ実をつけます。

ショウジョウバエは考えて食べる

谷村 禎一 (動物生理学研究室・教授)

食べることは私たちにとっても大切な行動です。生物は、体内で必要とされる栄養物を摂取しなければなりません。栄養素の中で、体内では合成できなく食物から取る必要があるもので、必須アミノ酸は重要です。ショウジョウバエをアミノ酸欠乏状態に数日おいてから、糖とアミノ酸を選ばせるとアミノ酸を選択的に食べます。ナトリウムの摂取もハエにとって重要です。ハエをナトリウム欠乏状態に数日おくと、やはりナトリウムを選択的に食べます。ショウジョウバエは、体内で不足している物質を補うように摂食行動を調節することが、つまり意思決定ができるのです。この研究のお話をします。



日時: 2016年8月13日(土) 13:30~16:00(講演会)
場所: 九州大学伊都キャンパス センター2号館・4階 2403号室

- ・JR筑肥線・昭和バス利用: 九大学研都市駅(地下鉄に接続)から九大行きのバスに乗り、ビッグオレンジ前のバス停で下車してすぐ。
- ・西鉄バス利用: 博多駅、天神バスセンターから伊都キャンパス行きのバスに乗り、ビッグオレンジ前で下車。

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/campus/access/ito/>

対象: 高校生および市民
定員: 約300名 参加費: 無料 参加申し込み: 不要
主催: 九州大学大学院理学研究院・生物科学部門
連絡先: 仁田坂英二(092-802-4266) 中條信成(092-802-4269)

